

令和3年度日本青年国際交流機構（IYEO）



I.活動方針

共生社会の実現に向けて、生きる力を発揮しよう

人々の交流がより一層スピード感をもち、混ざり合うこれからの社会においては、幅広い視野を持って柔軟に新しい取組を考え、実行できる人材が必要とされています。私たちは、世界につながる IYEO の全国ネットワークを活用し、青少年及び広く一般を対象に、多様な価値観と出合う楽しさを作り続けることによって、地域の国際化と次世代リーダーの育成を目指します。

活動の三大方針

(国際交流分野) #国際交流 #地域

1.多様な交流で地域と世界の距離を縮めよう

自分の暮らす地域への理解を深め、地域への誇りと当事者意識を持ち、国際交流活動を推進します。

(青少年育成分野) #青年 #人づくり

2.次世代のグローバルリーダーを育てよう

世界各国との交流や視野を広める機会を青年と共につくり、青少年の国際的な友好や相互理解の促進と協調精神を高めることで、地域から世界に向けてグローバルに活躍する次世代のリーダー人材を育成します。

(社会貢献分野) #地域 #社会貢献

3.多様な関係者と協働し社会課題を解決しよう

会員のリーダーシップ、ネットワーク、専門性を活用し、社会課題の解決に取り組むことで、地域に暮らす一人ひとりが人間性を高め、だれもが生き生きと暮らせる社会の実現に貢献します。

II. 令和3年度の重点取組

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により直接人と人が会うことが制限され、当初予定していた活動の見直しをしながら前に進む年になりました。試行錯誤の繰り返しが苦難に満ちた年でしたが、これまで検討することができていなかったことを検討できま

したし、コロナ禍にあったからこそ様々な手法を試し、アフターコロナの活動のバリエーションが増えそうな手ごたえも感じています。

令和3年度もコロナ禍による影響を受けることは予想されますので、制限された環境の下であってもできる活動を続ける努力をしていく必要があります。この1年間で蓄えた知見を共有して、各都道府県 IYEO をはじめとしたさまざまな活動主体で、より良い活動を創っていくことを支援します。

また、令和2年度から検討を始めた「IYEO リバイバルプラン」のとりまとめを進め、「これまでの組織課題の解決」と「社会価値と持続可能性を高める」ことに一定の道筋を付けていきます。

【重点取組】

1. 2段階人材育成システムを浸透させる

(現状の認識)

- ・内閣府事業と事後活動によって、グローバルリーダーをつくるという理念を堅持するが、コロナ禍により若干の意味付けの見直しをする必要がある。
- ・コロナ禍によるブロックイベントのオンライン開催により、移動する必要がないことから参加のハードルが一段と下がった反面、若手メンバーにとってのメリットとして設定した「イベントの無料参加」の価値が低くなった。

(令和3年度の取組の方向)

- ・コロナ禍の後もオンラインとリアルのハイブリッド開催という形態でブロックイベントが開催されることが多くなると思われ、若手メンバーにとって参加しやすい状況になることから、ブロックイベントを地域での事後活動に繋げる入口としての位置付けを確立する。
- ・若手メンバーにとっての事後活動研修費の一番の価値を「自分が起こしたい社会貢献活動を IYEO の人材と繋がりながら実施でき、そのために必要な経費もファンドから獲得できる」と設定し直し、啓発を進める。
- ・都道府県 IYEO は、従来の内閣府事業の地方プログラムに関わることができる場であることに加えて、「様々なスキルや繋がりを持つ魅力的な人材と交流できる場」「地域の企業や NPO 団体との繋がりを利用できる場」という特徴を際立たせ、若手メンバーの関わりシロを作ることを意識する。

2. 新たな財政の柱をつくる

(現状の認識)

- ・令和 2 年度に内閣府青年国際交流事業が中止され、令和 3 年度の事業開催も見通せない状況の中、事後活動研修費に大きく依存する財政を早急に見直す必要がある。

(令和 3 年度の取組の方向)

- ・歴史ある団体で会員数が相当多いこと、使うお金に意味を持たせたいと考える「イミ消費」のトレンドもあることから、会員に広く寄附を呼びかける仕組みを導入する。
- ・寄附しやすい仕組みと、寄附による成果を適切にフィードバックする仕組みも併せて検討する。

3. 未来創造会議を推進する

(現状の認識)

- ・内閣府青年国際交流事業に参加した後、事後活動に関わり IYEO の活動を創っている者の割合はせいぜい 10%程度というのが共通した認識であるならば、IYEO はやる気のある若手メンバーの多くを取り逃していることになる。
- ・2 段階人材育成システムを浸透させるためにも、IYEO が若手メンバーに成長を提供できる魅力的な場でなくてはならない。

(令和 3 年度の取組の方向)

- ・IYEO リバイバルプランの目的の 1 つである「新たな社会価値」を生むための取組として、未来の IYEO を担う若手メンバーが 2025 年の IYEO の姿を構想する「未来創造会議」を進める。
- ・「未来創造会議」を、IYEO の次世代のリーダーが現世代のリーダーとともに IYEO の未来に繋がるタネのアイデアをつくり、実践してみる「挑戦の場」として設定する。
- ・「未来創造会議」で生まれるタネの中で IYEO 全体で取り組むべきものを、今後の IYEO の活動方針に反映する。

4. 組織の意思決定方法の見直しをする

(現状の認識)

- ・IYEO として意思決定する機会が年に 2 回の全国推進会議しかなく、環境の変化が大き

い現下の状況にあっては意思決定のタイミングを逃すおそれがある。

- ・ IYEO 本部会長の決定方法が明確になっていない。

(令和 3 年度の取組の方向)

- ・ オンラインで会議をする環境が整ったことから、IYEO として意思決定する機会を年に 4 回設定する。
- ・ 長い歴史を持ち、会員の想いを原動力にするボランティア団体であるという特性から、IYEO 本部会長の交代のたびに方針が大きく振れるという事態を避けつつ、やる気のある人が多くの人から認められて会長になることができる仕組みをつくる。

5. 会員同士をつなぐプラットフォームを整備する

(現状の認識)

- ・ 会員への情報伝達が、郵送からメールや SNS を活用するようになったにもかかわらず、全会員に占めるメールアドレスの把握は十分でない。
- ・ 会員の情報管理が全て事務局の手作業で行われ負担が大きくなっている。
- ・ コロナ禍においては、これまで基本としてきた対面型の交流が難しくなり、オンライン事業の実施や、オンライン会議、情報交換の場が新しいコミュニティの在り方として社会的に認知されるようになった。

(令和 3 年度の取組の方向)

- ・ 会員同士をつなぐプラットフォームを整備して、会員同士をオンラインでつなげ、これまでになく方法でつながる関係性を構築する。
- ・ 会員が自ら登録情報を更新できる仕組みを導入する。
- ・ 令和 3 年度は、全国都道府県 IYEO 会長及び本部役員が活用するプラットフォームを稼働し、試行する。

6. 都道府県 IYEO の活動を支援する

(現状の認識)

- ・ 都道府県 IYEO ごとに活動状況や体制に差があり、運営に苦勞している都道府県 IYEO がある。
- ・ 引継ぎが上手くいかず、団体運営のノウハウが承継されていない都道府県 IYEO がある。

(令和3年度の取組の方向)

- ・役員研修を通し、都道府県 IYEO 役員が都道府県運営に必要な組織運営、活動創出、情報発信のスキルや、運営の合理化・効率化・システム化に必要な専門スキルを獲得し、都道府県 IYEO の運営レベルの底上げを図る。
- ・オンラインを活用して、ブロック幹事を中心に行うブロックミーティングにより情報を共有し、都道府県 IYEO の相談に乗る機会を設ける。
- ・総会資料など定例業務の定型フォームを作成することにより都道府県 IYEO の事務負担を軽減し、よろず web に都道府県 IYEO の活動に関する資料の集約を進め、将来のアーカイブとして残していく。

7. 出身事業ごとのつながりを強化し、活動創出につなげる

(現状の認識)

- ・「One More Child Goes To School」以降は、継続して行われている国際プロジェクト的な事後活動がない。
- ・各地域での活動だけでなく、各事業を軸とした活動が、組織の強みになるのではないか。
- ・事業ごとのつながりを強化することで、新たな継続的な活動の創出につなげられるのではないか。

(令和3年度の取組の方向)

- ・事業ごとの活動を、繋がりやすいところ、始めやすいところから、順次計画し、進めていく。現状の想定は次のとおり。
- ・日本・中国青年親善交流事業：日中友好協会や中国大使館との連携を引き続き深めていく。
- ・日本・韓国青年親善交流事業：内閣府韓国派遣・日韓学生フォーラム・Jenesys 大学生訪韓団のメンバーで運営している「コレヲキニ日韓（仮）」で、日韓交流の輪を広げていく。
- ・国際青年育成交流事業・国際社会青年育成事業：日ドミニカ友好親善協会やバルトの親善協会と相互会員になれないか、検討していきたい。
- ・東南アジア青年の船：「SIGA Japan」オンライン開催実現に重点的に取り組む。
(SSEAYP 出身者だけでなく、各事業の既参加青年も巻き込み、つながりをつくっていく。)
- ・世界青年の船：各国 AA の動きを SWY Japan にも共有・展開していく。また既参加青

年の活動や活躍をより可視化し、IYEO 活動や広報に結び付けられるようにする。

- ・このほか、事業を横断したイベント・プロジェクトを企画・実施する。

8. 充実した情報発信のための協力体制をつくる

(現状の認識)

- ・全国 IYEO からの情報収集ツールは Google フォームで作成し、よろず Web に掲載しているが、実際の情報提供は少ない。よろず WEB の認知度がまだ足りていないこと、各都道府県のリソースと意識不足、都道府県運営の Facebook には掲載するが IYEO HP へ掲載することへのモチベーション不足が主な要因と思われる。
- ・HP の掲載や、SNS 発信の実働メンバーが不足している。

(令和 3 年度の取組の方向)

- ・都道府県 IYEO 等がイベントの開催告知や報告が簡単にできるようにフォームを作成し、ホームページや SNS に早く掲載し、効果的に情報発信する。
- ・IYEO の情報発信を組織的に行い、持続可能な仕組みをつくる。

9. ファンドによる活動支援を推進する

(現状の認識)

- ・応募があつてのファンド活用なのにそもそもファンドへの応募が少ない。
- ・オンラインイベントしか開催できない現状でチャレンジファンドが使いづらい。
- ・育成ファンドに適用される継続した活動が生まれてない。

(令和 3 年度の取組の方向)

- ・チャレンジファンドの広報を積極的に行い、認知度を上げる。
- ・幹事会の開催回数に合わせてチャレンジファンドの受付時期を見直す。
- ・単発ではない活動は、育成ファンド適用を見据えてサポートし、ファンドを活用した活動の実績を増やす。
- ・ファンドを活用した活動を推進する体制を整える。